すこやかちゃん

綾太ちゃん（平成18年７月27日生）
両親＝遊橋智義・明日香さん〔飯岡〕
「ねっ！
一人でお座り上手でしょ?!」

暖人ちゃん（平成18年７月11日生）
両親＝宇井　優・睦子さん〔二〕
「何でも好き嫌いなく食べられるように
なったよ。ご飯、もうないの？」

堅心ちゃん・翔天ちゃん
（平成15年６月11日生・平成18年５月４日生）
両親＝渡辺栄樹・亜希子さん〔川口〕
「お兄ちゃん大好き♡
もっといっぱいあそんで!!」

＊すこやかちゃんを募集しています＊
掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班（〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070）へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。

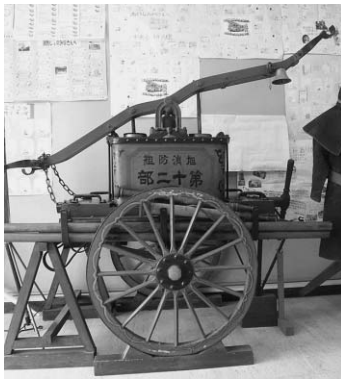
紙上展示室 ―旭モノ語り― 第二十三回

腕用ポンプ

腕用ポンプが初めて日本にやってきたのは、明治三年（一八七〇年）のこと。翌年には浅草の火災で消火活動に使われたという記録が残っています。その優秀さに東京警視庁が本格的に輸入、明治十七年（一八八四年）には、国産による量産化が実現することになりました。人力での動力ながら、吸引水量は一分間に一石三斗（二百三十四リットル）、水勢は高さ十三間（二十三m）、価格は四百三十円。この年の末には、江戸時代から使われていた消防器具「龍吐水」が廃止され、その役割を終えることになったのです。

現在、自治消防の主役は消防団ですが、大正から昭和初期には、消防組という名称で活動が行われていました。当時の旭町（太田、成田、十日市場、網戸、東足洗、西足洗、椎名内、野中、足川）は九組五十五部、二、七九五人の組員を有し、旭町警察署管内では五十三機の腕用ポンプがあったと記録されています。ほぼ各部に一機が配備されていたのでしょう。

この「旭消防組　第十二部」も、その一つと思われます。正式名称は「森田式腕用喞筒機」。喞筒とはポンプのこと。「大正十五年二月新調」と脇に書かれています。腕用ポンプには、イギリス生まれの甲号と、ドイツ生まれの乙号とがありますが、一般に普及したのは乙号のタイプ。これも「ドイツ乙型」と呼ばれるものです。自動車エンジンポンプが登場するまで、全国で活躍していました。



さてこのポンプ、朱色の外装を塗りなおされ、旭市消防本部の玄関で展示中。部品もそろっており状態も良好。消防史に残る近代化遺産の一つです。

参考文献：『自治体消防50年のあゆみ』（全国消防協会発行）・『千葉県消防史』（千葉県消防協会編）

〔大原幽学記念館　猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

１日(金)	人権擁護委員の日
	水道週間（～７日(木)）
３日(日)	消防団実戦操法大会（8:00～　ふれあい広場）
４日(月)	歯の衛生週間（～10日(日)）
15日(金)	県民の日
17日(日)	父の日

編集後記

褐色だった水田も、小さな苗のおかげでだんだん緑色に。これから稲刈りまで、旭らしい景色を見せてくれます。さて、田植えの様子を撮影しに市内を回りました。お願いすると皆さん快い返事、いつも感謝します。そのうちの一軒は、三世代が田んぼに勢ぞろい。機械化が進み、子どもが手伝う家は少ないかなと思っていましたので、春の日差しの下、家族みんなが田んぼにそろい、小学生の子どもが笑顔で手伝う光景は、とてもほのぼのしていました。（S）

R100 PRINTED WITH SOY INK 古紙配合100％再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。